



子どもたちの生活を守る指導員の 連携・協力・学びあいを

編集部

あいに関わつての課題」「とくにコロナ禍のなかで、課題と感していること」についてアンケートで実態を寄せていただきました（回答数五二）。

本稿ではそれらも紹介しながら、「学童保育における『指導員の連携・協力・学びあい』の実際と課題」を考えます。以下、今回寄せられたアンケートから、特徴的なこと、あらためてたしかめあいたいことを紹介します。

〈保育前・保育中の情報共有〉

◆午前中にミーティングを行う。午後から出勤するパート指導員への引き継ぎはノートを活用し、わからないところがあれば聞いてもらう。

◆保育前に、業務日誌と引き継ぎノートを使って、勤務するすべての職員が参加するミーティングを行う。休みや、お迎えの変更などはホワイトボードにも書き、皆が確認できるようにしている。

◆各指導員が保育中の出来事や気づいたことを保育日誌に書き、子どもの様子、指導員の関わりなどを情報共有している。

◆気づいたことがあれば、そのつど、口頭で伝えあうとともに、記録にも残す。

* * *

保育前の打ちあわせ、保育中の申し



指導員アンケートの 結果から

今回の特集の一環として、本誌読者の指導員の方々から、「保育前保育中の保育後の情報共有や伝達の実際」「事例検討について」「連携・協力・学び



送りや引き継ぎは、ほとんどの学童保育が場と時間を設けて行っていました。ホワイトボードや日誌、ノート、カレンダー、大きめの付箋などを活用して、情報共有の工夫をしている様子も寄せられました。

保育中、子どもたちは学童保育のなかで常に同じ場所において同じ行動をとっているわけではなく、室内や屋外など、さまざまな場所に分かれて過ごしています。また、同じ場所においても、各自が別の遊びをすること、おやつ準備と遊びと宿題などが同時並行で行われることもあります。保育中に各指導員が関わったことや子どもの様子、出来事をそのつど伝えあい、情報を共有しながら保育を進めることが大切です。

〈保育後の情報共有〉

◆保育後に職員全員で、気づいたことを情報共有し、日誌に記載する。

◆連絡事項は、そのつどノートに記入し、早番で帰る場合は、遅番の指導員に伝え、ホワイトボードに記入する。

◆保育日誌、業務日誌の記入時間を勤務時間内に設けている。

◆子ども一人ひとりと、指導員それぞれが記入する欄のある保育日誌を活用。記入しつつ、同僚の記述を確認する。保護者に伝えるべき内容は、そのつど、口頭で確認。

* * *

このほかに、「常勤同士で申し送りを行っているようだが、補助員には伝達がない」「行っていない」などの回答もいくつか見られました。

勤務体制や勤務時間などのかねあいもありますが、その日に勤務した指導員全体で情報を共有する場を設けること、子どもが帰った直後にその日の出来事を伝えあい、急いで対応するこ

との有無を確認するための工夫が必要でです。

〈事例検討の実施〉

事例検討を「行っている」という回答は五二件中、三四件でした（このうち七件は、地域の指導員会や連絡協議会などで、勉強会や実践検討を実施）。

職場内で行っているところでは、「定期的に行われる職員会議やミーティングのなかで」「職場内研修として」など、それぞれに工夫して場を設けていました。なかには、「週に一回、パートの方も含めてすべての職員が一週間の様子をふり返り、子どもの様子で気づいたことなどを簡単なレポートにして提出。それを活用しながら、どうして子どもがそうした行動をとったのか、配慮すべきことなどを皆で話しあっている」という回答もありました。

なお、「事例は出しますが、検討には至っていないと思います（うやむや